

編集後記

2020 年度編集委員会委員長
亀山秀雄

P2M マガジンは、本学会の創立 10 周年を記念して創刊し、年 2 回の頻度で発行してきた。昨 years が創立 15 周年になるのを契機に年 4 回の発行にすることにし、毎回特集号を組んで 3 月、6 月、9 月、12 月の発行を考えている。創立 20 周年には、隔月発行を目標に編集委員会を充実していき、学生会員からの委員会への参加も検討したい。そのどこかで、年 1 回の英文ジャーナルを発行できるようにしたいと考えている。最終目標は、日本文ジャーナルを毎月発行し、英文ジャーナルを年 2 回発行できることである。そうなれば、国際 P2M 学会の名前に相応しい学会誌発行になると考えている。

今回の特集は、前回の「プログラムマネジメントの時代」の特集から、社会がプログラムマネジメントを必要としている事が浮き彫りになったのを受けて「プログラムマネジメントの教育の現状と展望」の特集を組んだところ大学でのプログラムマネジメント教育以外に、JST, NEDO, ERCA など競争的資金の管理を行う組織からも寄稿を頂き教育の新しい側面を見ることが出来たといえる。プログラムマネジメント教育を紹介さらに大学や企業の組織運営のためにもプログラムマネジメントが必要とされていることも分かり、全社会的なプログラムマネジメント教育の時代になってきたことは学会としても喜ばしいことである。

来月から始まる第 6 期科学技術・イノベーション基本計画は、名称にイノベーションの語が付加されて、科学技術の振興とそれを活用したイノベーションによる社会改革を強く意識した計画になっている。この基本計画では、自然科学と人文・社会科学を融合した「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資するものを求めている。そのためには、研究力を強化し、社会実装を目指すプログラムマネジメント力が重視されると言える。

そこで次回の 12 号では、特集「科学技術・イノベーション基本計画を確実に実践するプログラムマネジメント」と組むことにした。これは、第 5 期科学技術基本計画の前年の 2014 年に発行された「実践プログラムマネジメント」の続編に位置すると考えている。このプログラムマネジメントの特集 3 部作をまとめて、「続・実践プログラムマネジメント」を世に出すことができると考えている。冊子体、電子版、オンライン講義版などどのように発行するかはこれから検討したいと考えている。ご期待下さい。

最後になりましたが、年度末のご多用の中にもかかわらず、本特集に寄稿して頂いた方々に編集委員会から御礼を申し上げます。

(2021 年 3 月 25 日)